

楓の森アップデート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第17号

令和5年(2023年)12月21日
文責 校長 佐藤 政臣

人権月間についてパート⑤

縦割り人権集会②

～小学1年から4年～



20日(水)は、延期されていた1年生から4年生までが3つのグループに分かれた「縦割り人権集会②

(2～4校時)」を行いました。

各学級で共通教材を学習し、それを自分の生活と重ねて気づいたことや考えたことを発表することができました。以下にそれぞれの学年が発表したことを述べます。

1年生は、「教材 さるとかに(なかま)」を学習しました。石を投げた「さるきち」と、石を投げられた「かに」たちの気持ちを考えて発表しました。教材を学習した後に、自分のことと重ねて「自分がいやだったことは相手に知らせることが大切だと思う」、「相手の気持ちを考えて、ごめんなさいをして仲直りしたい」など生活の中での行動を振り返ることができました。

2年生は、「教材 つらいことあるんだね(にんげん)」を学習しました。教材文を学習後、自分のくらしを見つめ、作文に書いたことを伝えることで、つながり合うことの大切さを感じることができたようです。最後にみんなが笑顔で安心するクラスになるように、各クラスの人権目標(スローガン)を発表しました。

3年生は、「教材 このままだまっていいの(きずな)」を学習しました。教材文を学習後、日常のくらしを振り返り、偏見や差別がないかを考えました。「クラスの中での出来事は、みんな考え、安心できるクラスにしていきたい」、「いつのまにか相手がいやなことをしているかもしれないから、気づいたらごめんねと謝ることができる人になりたい」などと発表することができました。

4年生は、「教材 お父さんの思いや願いを受けて(きずな)」を学習しました。教材文を学習後、自分達のくらしを振り返り、おかしいと思っている事などを出し合い、どう解決していくかを出し合いました。「なぜ、部落差別をするのかということ話し合いました。差別をなくすためには、学習することが大切だと思う」、「い

やな思いをしている人を見たことがあるが、相手に注意することができなかった」、「勇気をだして注意ができる人になりたい」など、偏見・差別事象を自分の生活と重ねて発表することができました。

最後に、校長講話をして終わりました。話の概要を以下に述べます。(それぞれのグループで違う内容になりましたが・・・)。

～校長の話 概要～

今日は、教室でしっかり学習したことを違う学年の人達にしっかりと伝えることができました。いじわるをされていやだったけど話し合っ解決することができたという発表などもありました。

それでは、今日は、いじめについて話します。まず、「いじめる」とは、どんなことを言うのでしょうか？考えてみてください。考えましたか？

例えば、次のようなことです。

①本人がいやがるあだ名で言う。②失敗や人と違っていることをばかにしたり、笑ったりする。③無視したり、遊びやグループに入れなかったりする。④たたたく、蹴るなど暴力をする。⑤「死ね」「よわむし」「きもち悪い」「ばか」などの悪口を言う。⑥物を持ってこさせる、ものを借りても返さない。⑦恥ずかしいこと、いやなことを無理矢理させる。」他にもあると思います。

このようなことをされたことがある人やされている人を見たことはありませんか。その時は、どうしますか。(このように子どもに問いながら話を進めました。)

このようなことをされた時は、おうちの人、先生、信頼できる大人の人に話をすることが大切です。また、周りのお友達にいうこともできます。さらに、いじめに気付いた人が、「ひどいね。でも、大丈夫だよ」「一人じゃないよ」「ぼくも一緒にいるよ」と、声をかけていっしょにいじめをなくしていく仲間として団結することでいじめはなくなります。いじめられた人は、長い時間が過ぎても、いじめられたことを忘れることができない人もいます。だから、いじめは絶対にしてはいけません。この言葉は、悪口かな？こんなことしたら、相手は嫌かな？と、相手を思う気持ちを持ちましょう。そして、困っている人やつらい人を見たら、優しい言葉をかけてください。全員が思いやりの心を広げて、いじめが起きない学校にしていきたいです。

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

楓の森小HP

